

## 論文審査の要旨

報告番号	総研第 577 号	学位申請者	貴島 沙織
審査委員	主査	堀内 正久	学位 博士(医学)
	副査	郡山 千早	副査 加治 建
	副査	田口 則宏	副査 網谷 真理恵

Effect of stress coping ability and working hours on burnout among residents  
(研修医の燃え尽きに対するストレス対応能力と労働時間の影響について)

燃え尽き (Burnout : BO) は感情労働という職務に起因する極度の心身の疲労と感情の枯渇を主とする症候群である。研修医における BO は臨床研修の障害や、中断の要因となっている。適切な臨床研修を提供するために、研修医の BO の実態と、BO に関係する研修環境と個人の要因を検討した。

全国からランダムに選択しアンケートを送付した 37 臨床研修指定病院のうち回答が得られた 18 病院に在籍する研修開始 3 か月目 196 名、15 か月目 184 名の研修医を対象とした。BO は Maslach Burnout Inventory (MBI-GS) を用いて評価した。MBI-GS は情緒的疲弊感 (MBI-Emotional exhaustion : MBI-EX)、冷笑的態度 (MBI-Cynicism : MBI-CY)、職務効力感 (MBI-Professional efficacy : MBI-PE) の 3 つの下位因子から構成されている。ストレス対応能力は Sense of Coherence scale (SOC) にて評価した。SOC は把握可能感 (comprehensibility)、処理可能感 (manageability)、有意味感 (meaningfulness) の 3 つの下位因子から構成されている。研修に影響する環境を評価する為に労働状況、精神的支援の有無、性、年齢等も評価した。これらを含むアンケートを作成し調査を行い、BO 率、MBI-GS スコアに関連する因子と相互作用を分析した。

その結果、本研究で以下の知見が得られた。

- 1) 18 病院 97 名 (3 か月 62 名、15 か月 35 名) の研修医から回答が得られた。平均労働時間は 63.3 時間/週、BO 率は 3 か月目 53.2%、15 か月目 42.9%であった。
- 2) 3 か月目では High MBI-EX が多く、15 か月目では High MBI-CY が多かった。
- 3) ロジスティック回帰分析では労働時間と SOC が BO と関連する有意な因子であった。
- 4) MBI 下位因子スコアに対する労働時間と SOC の影響についての分散分析では、MBI-EX の 3 か月目のみ労働時間が有意、SOC は MBI-EX 3 か月目を除いて全ての時期の下位因子において有意であった。労働時間と MBI-PE は SOC 高値群では正の相関を、SOC 低値群では負の相関を示した。

研修医の労働時間は週 40 時間までと制限されているにも関わらず、研修開始 3 か月目で約半数が BO と判定された。臨床研修という新しい環境に直面し、早期から BO していることが示唆された。15 か月目では 3 か月目と比較し仕事に対する情熱や関心を失っていることが示唆された。ストレス対応能力と長時間の労働は BO の発症、増悪に影響した。ストレス対応能力の高い研修医は BO リスクが低く、さらに長時間の労働により高い職務効力感を示した。経験を重ねることにより職務効力感を高めレジリエンスを得た状況になっていると考えられた。個人のストレス対応能力により BO に差がみられ、適切な研修環境の提供に SOC を活用できることが示唆された。

本研究はエビデンスが少ない中、制限されている臨床研修の労働時間についてデータをもたらし、また個人のストレス対応能力に対する評価の有用性を示した。よって本研究は学位論文として十分な価値を有するものと判定した。